



学校通信

豊地っ子だより

～ 考える子 はげましあう子 つよい子 ～

令和3年12月1日

No. 8 三木市立豊地小学校
<http://www.miki.ed.jp/el/toyoti/>

体験学習を通しての「深い学び」－考える子の育成－

緊急事態宣言が解除されて、外部講師を招聘しての授業や校外学習を実施することができるようになりました。保護者の皆様が子どもへの体調管理に努めていただいているおかげで実施できていますこと心から感謝申し上げます。

6年生は1泊2日の修学旅行を実施しました。学習の目的を平和学習ができる施設、社会性の育成や仲間づくりを図ることのできる施設として行き先を選定して計画しました。そこで、主な行き先を南淡路・若人の広場公園、安富白土瓦や姫路城などしました。南淡路・若人の広場公園では戦争に関する展示物を観たり、施設の方から戦争の話の話を聞いたりして平和学習を進めました。また、安富白土瓦では瓦粘土を使ってコースターづくりを行うことで、粘土を高温で焼くことにより風雪や雨から私たちの生活を守ってくれる屋根瓦になることを知りました。

今回の修学旅行では宿泊先のホテルで洋食をとることになりました。子どもたちが社会人となる時代にはグローバル化が進み、外国籍の方と働くことも多くなり、洋食をとる機会も増えることになると考えます。そこで、子どもたちに有意義な体験を積ませるために、修学旅行前に外部講師を招聘して洋食のテーブルマナーについて学習をしました。事前学習の成果が活かされて、マナーを守り、ナイフとフォーク、スプーンを使って食事をとることができました。食べるのに苦労した体験からテーブルマナーの基礎を学ぶことができたと考えます。



洋食をとっている様子

この修学旅行では、さまざまな体験活動を通して社会性の育成など、多くのことを学び取ることができました。

また、5年生は2泊3日の自然学校を実施しました。今年度の自然学校のテーマは「進学皆協(しんがくかいきょう)」として自ら進んで学び、みんなで協力して自然学校を有意義な体験活動にしよう取り組みました。

自然学校ではさまざまな体験プログラムを行います。その中の一つに野外炊事があります。野外炊事は火起こしを行うことから活動が始まっていきます。火起こしを担当した子どもは、チャッカマンを使って新聞紙に火を点けて薪に火を移していかなければなりません。「薪の組み方をどのようにすれば空気が通るのか」試行錯誤しながら作業を進めていましたが、点火できないで困っていました。そこで、4年生の理科の学習で学んだ空気の性質について思い出すように言いました。

「温まった空気はどのように流れていくのか」

「うちわを扇ぐ高さは、薪を組んだ下の位置なのか。それとも真ん中なのか。一番上なのか」

温まった空気は上に流れていくことを思い出して、下から扇げば燃えると結論付けました。実際に下から扇ぐと、火は勢いよく燃え上がりました。子どもは笑顔になり、一段と作業に励み始めました。体験活動を行うことで学校での学びが実生活で活用できる力に変化した瞬間でした。



火起こしをしている様子

「体験に勝る学びはない」とも言われますが、学校で学んだ知識をもとに実際に見たり聞いたり触ったりするなど、五感を働かせて得た気付きをまとめていくことで知識への理解が深まり、実生活に活かせる力になると考えます。これからも本校では社会施設や自然環境を活用した体験学習。また、ゲストティーチャーを招聘しての体験学習を実施してまいります。

本校の教育活動へのご理解ご協力をお願いいたします。

学校長 善村 龍昭

この様子はHPでも公開しています。